

ICBA Newsletter

鉄太さんの絵本のワークショップ開催	1
ICBA 運営からの報告	2
文庫紹介：湘南エコー文庫	3
新しく開設された文庫紹介（海外）	4~5
ローマりんご文庫の活動レポートから	6
My Bookshelf	7
国際児童文庫協会	8

国際児童文庫協会 ニュースレター No 71, April. 2012



いろいろな動物を
本で見たのが楽しかった



パステルを塗るのが楽しかった。



パステルをねりけして
消すんだ

Mari さんからパステルを
こすりとることを教わったよ

~ぼくだけ、わたしだけの絵本~

オーストラリアの動物が 私の町に来たら？

2011年11月27日、メルボルンこども文庫の渡辺鉄太さんによる、絵本作りのワークショップが、新百合ヶ丘21ホールで開催されました。作業の前に、鉄太さんによる『おおきなカエル ティダリク』の読み聞かせがあり、参加者はオーストラリアの暮らしや動物に触れることができました。

また絵本が出来上がった後に『やぎのアシヌーラどこいった？』を読んでもらいました。そのお話がどうやってできたのかを、子どもたちは興味深く聞きました。



みんなで手分けして折ったよ。



最後は作った絵本といっしょに記念撮影



オーストラリアの動物って
きれいないろいろだね

絵を
描いたり、
貼ったりして
楽しかった



できた！ぼくの本
私の本



作った本は今でも家で
よく見えています

~感謝~

メルボルンこども文庫 渡辺鉄太さん
 絵画指導 Mari さん
 「多摩美術大学・絵本創作研究会」
 学生さんたち
 「緑の種アートネットワーク」高橋さん

*当日の様子はこちらでご覧になれます→<http://www.icba-1979.org/会員ページ/>
 このワークショップを文庫でやってみたいと思った方は、ホームページからお問い合わせください





大震災からの復興を願って



岩手県山田町龍昌寺 清水住職 森嶋 UK 支部長 丸山代表

大震災から 1 年、復興のニュースが伝わる一方で、いまだ十分な支援の届いていない話も聞こえています。そして察するに余りある状況を前に、思いと行動をすぐに結びつけることの難しさを痛感した 1 年でもありました。しかし長期に渡るこの復興に、いつでも手を差し伸べる心を持ち続けていたいと思っています。

前号でお伝えした多賀城市の幼稚園には、年末に季節のカードや絵本を送りました。これからも続けて絵本を届けていきたいと思います。他に、解決の糸口が見つからない原発問題に直面している子どもたちへの支援についての話を進めています。追ってお知らせできることと思います。

一方、オーストラリア・シドニーの文庫（ジャカラング文庫、レインボー文庫、ユーカリ文庫）が集まり、「ICBA 合同スプリングフェスティバル」を開催。友達カードを作り、群馬県にある NPO 法人国際比較文化研究所「まなばる」を通じて被災地へ送りました。また、フェスティバルの参加費、本販売の売り上げ、寄付金などのすべての収益を、「ICBA 子どものための草の根支援 3:1 東日本大震災」に寄付下さいました。

UK 支部では震災後すぐに、ちびっこ文庫、いろはきっず文庫、のびのび文庫などの文庫の方々が各コミュニティで募金活動を行ったり、UK 支部主催のジョン・シェリー氏のチャリティ講演会を行ったりと、ボランティア精神が行き届いているお国柄で精力的な活動が行われました。詳しくは ICBA UK 支部 HP に掲載されていますので、ぜひ一読ください。★ICBA UK 支部 <http://www.kodomobunko.org.uk/> 東日本大震災支援活動

また、昨年 11 月には森嶋 UK 支部長と丸山代表で、岩手県盛岡市山田町龍昌寺を訪問しました。UK チャタム高校（神戸高校の姉妹校）から託された支援金、「ICBA UK の草の根支援の口座」に集まった支援金、英語絵本、UK 文庫の子どもたちからの挨拶と励ましのカードを手渡しました。その後も引き続き、カードや英語絵本を送る交流を続け、その中から現地の子どもたちにとって一番よい支援を探っていくとのことです。

そして 4 月 3 日、UK 文庫の子どもたちは、英国王立キュー植物園にて行われる在英国日本大使館ほか主催の「東日本大震災復興祈念イベント」に参加し、つばさ合唱団とともに歌を披露しました。奇しくも岩手県山田町綾笠小学校の子どもたちが参加されました。

みなさんが各所で支援活動に関わっていらっしゃることを聞き、必要に応じて一緒に活動することも考えていきたいと思っています。今後ともいろいろな形で私たちが自分のできることににかかわっていききたいですね。



伊藤忠記念財団 子ども文庫助成贈呈式に出席して



日常をとりもどすことに手いっぱいな被災地で、自分の足とネットワークを使って、子ども達に絵本や児童書を届けたのは地域の文庫やお話会の人たちでした。伊藤忠記念財団の今年度の子ども文庫助成も、東日本大震災後の被災地読書支援も、過去に助成を受けた被災地の文庫を通じて進められたそうです。同じく助成経験のある全国各地の文庫からの「被災した文庫に本を届けたい」「いただいた本を被災地の文庫にお譲りしたい」という声をつないだのも被災地の文庫でした。

会場のあちらこちらで被災地の方達の話しに熱心に耳を傾ける人たちの姿があり、新たなつながりも生まれていました。「大変な日常がある一方で、全国に文庫の仲間がいることを感じ、それがただ嬉しかった」被災地の方の言葉が心に残りました。人と人とのつながりから信頼の輪を広げていくこのたびの支援のあり方に、とても親しみを感じました。（運営 丸山明栄）

湘南エコー文庫

Shonan Echo Bunko
since 1980 (英語文庫)

現在活動している国内文庫の中で、一番長い歴史のある「湘南エコー文庫」が、メンバーの交替とともに活動場所を鎌倉から横浜・桜木町に移しました。そんな湘南エコー文庫にお邪魔してきました。(運営 海保)

土曜日午前 10 時前、桜木町駅からほど近い横浜市市民活動支援センターには、湘南エコー文庫のメンバーが続々と集まって来ます。メンバーの多くは、国際結婚の家族で、ルーツもさまざま。

普段は日本の学校に通っている子どもたちの英語教育のために、毎週土曜日の午前中に英語のクラスを設けていましたが、そのメンバーで文庫活動を始めました。「本をたくさん読むことができる文庫のアイデアはとってもいいね。」とはあるお父さんの言葉。毎月最後の土曜日には、交替でイベントを企画していて、春には屋外で、イースターのエッグハントの予定もあるそうです。楽しそうですね。



きょうの文庫は、Valentine's Party!



はじめにみんなで、Valentine's Card 作りをしました。

シールで飾ったカードに、それぞれ言葉を書き添えます。色鉛筆やマーカーできれいに色を塗る子や、もっとシールを貼る子たちもいて、カラフルなカードがたくさんできました。

カードの宛先は、文庫のお友だち、ママやパパです。みんな心をこめて作りました。また折り紙でハートを折った子もいましたよ。みんな大好きな人に気持ちを伝えられたようです。

ハートがいっぱいの
きれいでしょ?



次は、メラニーさんによる storytime!

みんなで集まってサークルになり、歌を歌ってから、ひとりずつ元気にお返事をします。その後はメアリーさんがいろいろな valentine's card を紹介してくれたり、みんなで一緒にハートのカードを作ったり、そしてオリジナルストーリーも聞かせてくれました。

次は、絵本の読み聞かせです。この日にぴったりの「Guess How Much I Love You」でした。みんなで実際にどのくらい? って、手を伸ばしてみたり、ジャンプしてみたり、絵本を体感しました。

最後は、みんなのお楽しみのポットラックパーティ! ランチャやバレンタインならではのスイーツも並び、みんなでいっしょにいただきました。

★当日の様子は、ICBA HP の〈会員のページ〉—〈2011 年度 文庫活動レポート〉に写真とともに紹介されていますので、ぜひご覧ください。

<http://www.icba-1979.org/>



絵本の読み聞かせは

『Guess How Much I Love You』



湘南エコー文庫では、本を 10 冊程度、ナンバリングをしたビニールケースにつめて、みんなで回しています。活動場所が変わり、本を置いておくことが出来なくなりましたが、こうしたことで本の保管と貸し出しをまとめて行っているのです。電車通ってくるメンバーにも負担にはならない量ですね。また貸し出し記録をつけて、まんべんなくまわる工夫もされています。

Welcome to ICBA! 新しく開設された海外の文庫を紹介します!

UK では広い地域に渡って新しい文庫が開設されています。オーストラリアでは文庫卒業生のためのお兄さんお姉さん文庫ができました。また、フィリピンに初めてのIC文庫ができました。みなさん、どうぞよろしくおねがいします!



あかいりす文庫 2011.9 開設 スコットランド/グラスゴー

あかいりす文庫は、スコットランドで誕生した初めての ICBA グループです。現在、会員はグラスゴーに住む 6 家族で、参加している子どもたちの年齢は 10 ヶ月から 4 歳半です。毎月第 3 週の木曜日に、リーダーの家に集って、ラジオ体操、本の読み聞かせ、季節の歌や手遊び、紙芝居、季節の行事などの活動を行っています。

日本の文化と言語を、楽しみながら体験し、学んでいけるグループとして、会員同士助け合いながら「細く長く」活動を続けていきたいと考えています。どうぞ、よろしくおねがいします。(井口文)



すくすく文庫 2011.9 開設 イギリス/レディング

すくすく文庫は、北レディング周辺在住の 6 家族、8 人、2 歳から 7 歳までの子ども達が集って 2011 年 10 月から活動を始めました。参加する子ども達が、この文庫活動を通じて、日本語や日本文化に親しむこと、日本語でお友達とおしゃべりしたり遊んだりする楽しい時間を過ごすこと、良質の日本語の本に出会う機会を増やすことを目的に活動しています。この文庫活動が、将来子ども達の良い思い出になることを願っています。

活動場所は、北レディングの会員宅で、活動日程は毎月第 1・3 金曜日。活動内容は各回、日本の行事などにちなんだその日のテーマを決めて、そのテーマに沿った絵本の読み聞かせ、工作、ゲーム・遊び、童謡の合唱を基本にしています。ICBA からお借りしている紙芝居、またわらべうた、ことわざや漢字の紹介も 適宜取り入れています。(西園寺仁美、阿部真千)



菜の花文庫 2010.11 開設 イギリス/ニューカッスル

菜の花文庫には 2012 年 3 月現在、2 歳児 3 人、3 歳児 1 人、4 歳児 1 人、5 歳児 1 人の 6 名が参加していますが、そのうち 3 名は 4 月に日本に帰国されることになり、今は新しいメンバーを募集中です。

活動日は、月一回、第一週の水曜日で、文庫リーダー宅に集まっています。お昼前から集まり、自由に遊び、一緒に持ち寄りのランチを食べてから、輪になって座り、歌を歌ったり、本を読んだりします。

手遊び歌、本の読み聞かせ、本の貸し出しを中心に、普段あまり聞くことのない日本語に慣れ親しませるための時間を設けています。参加メンバーの年齢が低いこともあり、工作などは活動に入っていませんが、その季節の行事にあった活動を取り入れるようにしています。

(ネイリスまき)



かささぎ文庫 2010.11 開設 イギリス/ニューカッスル

2011 年 1 月に 5 家族 6 人から始まった文庫は、今年に入り 8 家族 11 人になりました。年齢層は 0 から 4 歳。0、1、2 歳児だけで 9 人という小さい子が中心の文庫です。去年は、ゲイツヘッドのチルドレンズセンターで毎週金曜日 1 時半から 3 時まで日本語の遊びの会を行いました。

自由遊びのほか、本の貸し出し、読み聞かせ、歌、日本の行事に合わせた工作をしました。子どもたちは楽しい時間を過ごしながらか日本語に触れました。この他、不定期で各会員宅でも活動をしています。家庭での活動の際も、読み聞かせ、歌を中心に、お昼ご飯やおやつの時間を共にして、生活のマナーやルールも楽しみながら吸収しています。

この文庫活動のおかげで、みんな本や歌が大好きです。今後も子どもたちが楽しく日本語に触れられる場を持っていきたいと思っています。(ローランズ真弓)



たけのこ文庫 2011.2 開設 イギリス/ロンドン・ブリクストン

たけのこ文庫は、英国ロンドンのブリクストン近辺で活動する「すくすく会」と「のんびり会」が合同で 2011 年 3 月に立ち上げた文庫です。現在 0-6 歳、20 家族 22 人が登録しています。

活動は、小さい子文庫と大きい子文庫に別れて行われており、小さい子文庫は、毎週水曜日の午前中 10:00-12:00、大きい子文庫は毎月一回土曜日の 2:30-4:00 で開催しています。

活動内容は、本の読み聞かせ、紙芝居、季節の歌や季節行事にちなんだ遊びやクラフト、日本の伝統的なお遊びをとりいれています。文庫のモットーは、特に明記していませんが、日本語の本をはじめ日本の文化に触れることを子どもたちが楽しめるように願いつつ、無理なく長く活動したいと思って頑張っています。(杉本聡子)

ICBA 運営では、一時帰国された文庫メンバーとお会いする機会を大事にしています。文庫の様子を聞いたり、児童書専門店と一緒に本を選んだり、文庫訪問の橋渡しをしたりしています。今年度は、ジャカランダ文庫佐藤さん、あずき文庫花岡さん、レインボー文庫竹森さん、のびのび文庫百田さんとお会いしました。実際にお話を聞くと、文庫の様子が見えてきて、お互いに新しい発見があります。ぜひご連絡下さい。



東の森文庫

2011.4 開設

イギリス/ロンドン・エッピングフォレスト

ロンドンの東、エッピングフォレストの入り口辺りの小さな教会ホールで、桜の季節に活動をはじめてから一年、東の森文庫は、30 人も子ども達が集まる大きな文庫に成長しました。隔週金曜日の放課後、毎回 20 人以上の子ども達が集まり、季節の工作、紙芝居、本の読み聞かせ、ラジオ体操、わらべ歌、伝承遊びなど、わいわい楽しく活動しています。

イギリスにいても、日本の文化や伝統を肌で体感し、日本とイギリスのどちらにもしっかりとアイデンティティーを持って育ってくれることを願い、お母さん達は、アイデアを出し合ってアクティビティーを企画しています。現在は、主に 4 歳～7 歳の子ども達が参加していますが、今後、先輩っ子たちが後輩っ子へお手本を示したり、手助けしたりする立場に成長し、東の森スピリッツを伝えていって欲しいです。

(東の森文庫リーダーズ)



豆の木文庫

2011.6 開設

イギリス/ウォルセアムストーウ

豆の木文庫は 0 才から 6 才までの 6 人の子ども達が参加しています。活動日は毎月第 3 木曜日、4 時 15 分～5 時 15 分です。コミュニティスペースの一室を借りて、大きなテーブルを囲み、ゆったりとした雰囲気で行っています。

活動内容は本の貸出し、季節行事の工作、童謡、本の読み聞かせ、紙芝居などです。インターネットを利用して日本の子ども達が歌っている手遊び歌を見ることもあります。七夕飾り、雛人形作り、折り紙など毎回行う工作で出来上がった物を持ち帰れるようにしています。

皆仲良く楽しく遊びながら本や紙芝居を通して日本語や日本文化を少しでも感じてもらいたいと願って活動しています。子ども達の興味深げに紙芝居を聞く顔、工作で作ったものを持ち帰って家族に話している様子を見てみると文庫活動に参加できてよかったと実感しています。

(加藤桂子)



やしのみ文庫

2011.7 開設

フィリピン/メトロマニラ (ケソン市)

やしのみ文庫はフィリピン・メトロマニラのケソン市で活動しており、メンバーは 5 家族、8 人の子どもたちです。この文庫は元々、土曜日に行なっている日本語補習授業のボランティア・ママさんたちが中心となって、日本語の勉強だけでなく、絵本を通して心と言葉の繋がりを深めようと発足し、国際児童文庫協会の仲間に入れていただきました。

毎週、日本語補習授業で顔を合わせているものの、やしのみ文庫としての活動はまだまだ不定期で、今のところ絵本の貸出し(デリバリー等)がメインになっています。

この度はおかげ様で伊藤忠記念財団からの絵本 100 冊助成を受けることができましたので、今後は読み聞かせや季節の行事などを通して、日本の文化や習慣などを子どもたちと一緒に楽しんでいければと思っています。

(小野恭子)



レインボー文庫

2011.5 開設

オーストラリア/シドニー

シドニー市内北部に 2011 年 5 月 6 日に発足。蔵書 450 冊。4 名の役員で運営。5 歳半から 11 歳くらいまでの子どもたちが対象。

現在、平均 16 名くらいの子どもたちがスクールホリデーを除く隔週金曜日の 3 時半から 5 時 20 分まで来ています。親御さんには会が終わる頃に迎えに来ていただいています。

会の流れはわらべうたではじまり、わらべうたを歌いながらの縄跳び、日本の懐かしい遊び、言葉遊びなどです。それから子どもたちを落ち着かせるために一旦会場の電気を消してろうそくをつけての素話、2 つのグループに分けての読み聞かせの時間、最後にクラフト。天然素材のみを使った手仕事を、子どもたちに提供しています。手を使った作業は、この年齢の子どもたちにたいへん良いことですし、本物を見ること、触ることは、子どもの五感を育てる意味でも重要だと思います。

(竹森あゆみ)

2011 年度 伊藤忠記念財団 子ども文庫助成受領文庫が決まりました！

<小学校低学年向け子どもの本 100 冊図書セット助成>

いろはきず文庫(イギリス/ケンジントン)
まなざし文庫(イギリス/ベッドフォード)
菜の花文庫(イギリス/ニューカッスル・アポン・タイン)
ユーカリ文庫(オーストラリア/シドニー)
やしのみ文庫(フィリピン/マニラ)

<小学校中学年向け子どもの本 100 冊図書セット助成>

東の森文庫(イギリス/エッピング)
いるか文庫(イギリス/ニューカッスル ウィットレイ・ベイ)
レインボー文庫(オーストラリア/シドニー)

*すでに伊藤忠記念財団のホームページ上で、2012 年度の応募要項を見ることができますので、ご希望の文庫リーダーの方はぜひ一度ご覧ください。http://www.itc-zaidan.or.jp/zaidan_bunko_bosyuugaiyou.htm
また、申請希望される文庫は、運営までご連絡ください。



★～絵本の読み聞かせ～★

「りんご文庫」の12月の活動報告より



♪透明の色紙で作った「トランスパレントスター」を窓に飾ろう～♪

りんご文庫（イタリア/ローマ）には、会員が5家族、幼稚園年長から小学4年生までの子ども達が7人います。こじんまりとした文庫ですが、大人も子どもまるで親戚家族のように仲がよいのが自慢です。

12月の活動は、いつものように「でんでらりゅうば」を歌って始めました。ろうそくを灯して心を合わせたところで、季節の俳句を一句唱えました。そして、「うまやのクリスマス」「あのねサンタの国ではね」などクリスマス絵本をたっぷり3冊楽しみました。

お母さん方の力作そろいのおやつで休憩をした後、冬の窓を飾るきれいな透け模様の星を色とりどりの紙で作ったり、クリスマスソングを賑やかに歌ったりと、一年に一度の特別な日を楽しみを温かな気持ちで共有しました。（From ラムゼイ真帆）



★今回、ご紹介したのは、ICBAのホームページ/「会員のページ」/「2011年度文庫活動レポート」のりんご文庫「文庫活動レポート」です。

ICBAは、このように送っていただいた文庫活動レポートやニュースレターをホームページに掲載しています。

「文庫レポート」は、それぞれの文庫で読んだ本・季節の行事に関するアイデアなどを、他の文庫と共有していくことを目的としています。

こちらは会員のみ閲覧できるページで、パスワードで管理されています。

会員以外は閲覧できませんので、ぜひ楽しい写真も送ってくださいね。

ホームページの「問い合わせ」から、ご連絡をお願いします。

皆さまからのユニークで素晴らしい活動報告をお待ちしています!

<http://www.icba-1979.org/会員のページ/> パスワードはリーダーにお尋ねください

MY BOOKSHELF



このコーナーは、ICBAの仲間の本棚から、絵本だけでなく幅広い分野の本を紹介していきます。気になった本はどれでしたか？

ふたごの大冒険で、わくわくドキドキしてみませんか？

『ふたごの兄弟の物語（上）（下）』 ISBN: 978-4001141566（上） 978-4001141573（下）
トンケ・ドラフト著 西村由美訳 岩波少年文庫 2008年 各756円+税



貧しいけれど、愛情豊かな両親の元で、ふたつぶの砂のようにそっくりなふたごの兄弟は、いつもいっしょで、何の心配もなく成長しますが、15歳のときに両親を病気で失ってしまいます。瓜二つなのに性格はまったく違う兄のラウレンゾーと弟ジャコモは一年後の再会を約束し、別々の方角に進んでいきます。二人に待っている冒険とは…？二人が選んだ職業とは…？

お話の語り口は昔話を聞いているようですが、はらはらドキドキの冒険ファンタジーとも言える魅力たっぷりの物語です。どうしてこんなにひきつけられるのか…。それはなんととっても、主人公の魅力にあるのですが、また、彼らを導く聡明な大人たちの存在でしょうか。何度も何度も窮地に立たされながら、彼らを救うのは魔法とは違う、人間の心の内にもっている不思議な力なのです。世の中に出る前の子ども時代にこんなすてきなお話を家族で分かち合えたら幸せだなあとと思います。日本語訳が出版された2008年は、なんとオランダで原書が出版された50年後と聞いて驚きました。時代を越えたすてきなお話です。声に出して読んでも楽しそう。(運営 秋元澄子)

初版は1962年、そのままの形で復刻しました。

『きみのせかいはどんないろ？』 ISBN: 978-4902593877
ポブ・シル著 須田志保訳 ファイドン 2010年 1200円+税

こちらは、読み手の感性にまっすぐに訴えてくる本と言えるのではないのでしょうか。色をテーマにした本はたくさんありますが、鮮やかな色と、黒の線画がとてもおしゃれで、アーティストが語りかけてくることばは、単刀直入です。「せかいはどんないろ？」という質問に、庭師や大佐や王様等が、それぞれ「みどり」「ちゃいろ」「むらさき」などと答えます。ところが、アーティストにとってはそれらが全然別の色になるというのです。「自分の好きな色になる」と！

いろいろな人にとっての色と、自分自身が考える色は違って当然で、「きみの世界はきみが作る！」という、シンプルですがとても大切なメッセージが、なんともおしゃれに伝わってくるすてきな絵本です。(運営 秋元澄子)



「移動する子ども」を育てている私たちの必読の書！

『私も「移動する子ども」だった』 ISBN: 978-4874244746
～異なる言語の間で育った子どもたちのライフストーリー～
川上郁雄 編著 くろしお出版 2010年 1400円+税

「移動する子ども」とは、親や子ども自身が国境を越えて「移動」している、二つ以上の言語の間を「移動」しながら成長している、その結果外国語教育や母語教育などの間を「移動」しているという特徴がある。(本文より抜粋)

日本で活躍する10名の“移動する子どもだった”著名人へのインタビューによって見えてくる彼らのアイデンティティと言語能力を早稲田大学大学院教授日本語教育研究科の川上郁雄教授が分析。わたしたちが移動する子どもたちとどう向き合っていけばよいのかを考えさせられる一冊。ICBAとしては、“みどりの森文庫”(アイルランド)の稲垣みどりさんが川上教授のもとで研究されているというご縁があります。(運営 海保由子)



International Children's Bunko Association

国際児童文庫協会は、

海外駐在、帰国、国際結婚、移住などによりバイリンガル・バイカルチュラルな環境に育つ子どもたちのための文庫開設や文庫活動を支援するボランティア団体です。
1979年の創立から32年間、活動を続けています。



I C Bunko

国際児童文庫は自主活動グループですが、文庫活動の可能性を信じる方、それに共感する世界中の仲間によって支えられています。そして未来の文庫を開設する“タネ”へとつながっています。

**ICBA 会員
募集！**

【ICBA 会員】

文庫メンバー1500円/年

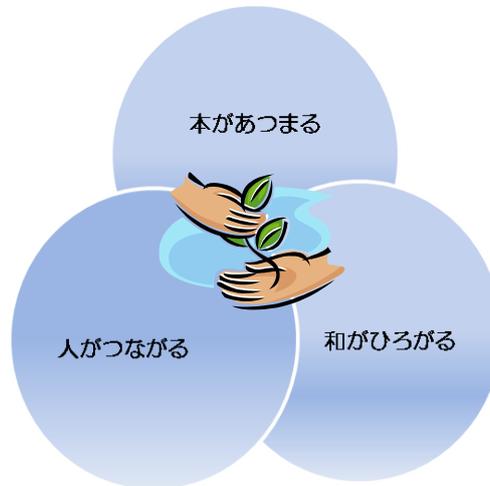
【サポート会員】

個人年会費 1500円

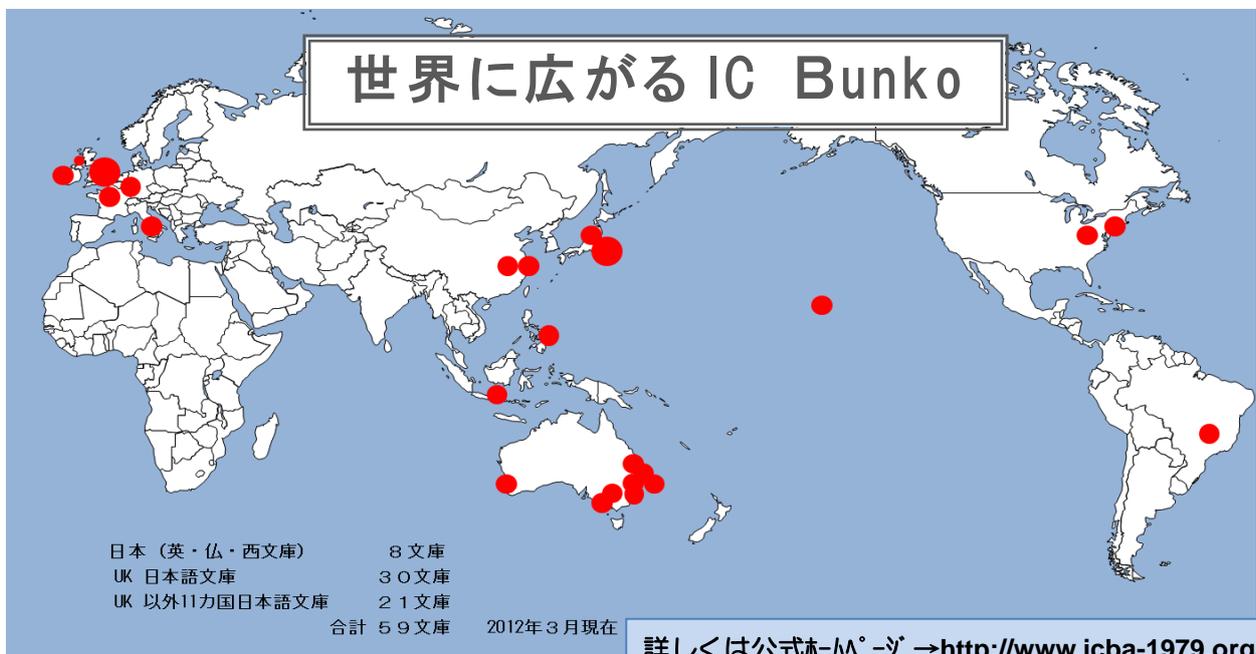
団体年会費 5000円

(一口)

*みなさまの会費によってICBAは運営され、また新たな文庫開設への支援となります。

ICBA の活動がめざすもの**支援活動例**

- *文庫開設支援として
ウェルカムパック選書と送付
- *きのこブック送付
(=会費に応じた本の送付)
- *ホームページ管理運営、ニュースレター作成送付など
本の紹介、本の寄贈、助成に関する情報提供
- *文庫運営の相談
- *紀伊國屋書店、資生堂、文庫OG、個人の方々からご支援いただきます。

世界に広がる IC Bunko詳しくは公式ホームページ → [http://www.icba-1979.org/IC 文庫/](http://www.icba-1979.org/IC%20文庫/)**国際児童文庫協会 (ICBA) への入会お申し込み・お問い合わせは****E-mail: icba@g00.itscom.net もしくは TEL/FAX: 045-903-1744****URL <http://www.icba-1979.org/>****郵便振替 00190-8-10437 or 三菱東京 UFJ 銀行 渋谷支店(普)6450386****口座名義はいずれも 国際児童文庫協会****ICBA Newsletter No.71 国際児童文庫協会ニュースレター 2012年4月号****発行:丸山明栄 編集:海保由子 仁志田華子**